



2021 年度 杏林大学

【 講 評 】

大問構成は出題傾向に変化が見られた昨年度を踏襲するものだったが、問題の分量が大幅に減少した。特に大問 4 の長文問題は英文の分量そのものが大幅に減少、設問数も 20 問から 10 問に半減し、判断に迷う選択肢も少なかった。大問 1 の適語補充と大問 2 の語句整序も、ほとんどが典型的な出題であり平易だった。大問 3 の文整序問題は 1 題減少して 5 題となり、難易度の高かった昨年度に比べて取り組みやすい問題が増加した。全体として例年より易化したと言える。

【 解 答 ・ 解 説 】

I

ア. ①

文意より call for A 「A を要求する」となる①が正解。その他の選択肢は call in A 「A (医師・専門家など) を招く」 call out A 「A と大声で言う」 call up A 「A を起こす」などが主たる意味で不適。なお、③は call out for A 「A (行動などを強く要求する)」なら適する。

イ. ①

文意より what S is (all) about 「S の存在意義 ; S が存在する目的」となる①が正解。その他の選択肢では意味をなさない。

ウ. ②

文意より for the sake of A 「A のために」となる②が正解。その他の選択肢では意味をなさない。なお、①は on account of A で「A のために」となるが、これは原因・理由の「ために」であり、本問の目的を表す「ために」とは異なる。

エ. ②

本問は以下のように推測する受験生が多かったと思われる。「repay は接頭辞 re から『返金する』であり、広義に『与える』の意味を持つことから第 4 文型動詞である可能性が高い。よって repay you yesterday's lunch 『あなたに昨日の昼食代を返金する』となる①が正解」。しかし、この場合の直接目的語はあくまで lunch であり「昼食代」ではない。これでは「あなたに昨日の昼食を返金する」という文になり不自然。よって本問では repay you for yesterday's lunch 「昨日の昼食に対してお返しをする」となる②が正解。

オ. ②

比較級 **than any other** 単数名詞となる②が正解。本問では **merely one species** と **no more** 以下が同格関係にあり、否定語 **no** が用いられ、さらに **other** の直後に名詞 **species** が省略されているため、見慣れない形に思われたかもしれない。文意は「人類、つまりホモサピエンスは単なるひとつの種にすぎず、他の種がそうでないのと同じように独特でも特別でもない」となる。なお、**species** は単複同形である。

カ. ④

文意より **as well** 「その上；同様に」の④が正解。その他の選択肢では意味をなさない。なお、**as such** 「そういうものとして」「それ自体で」は頻出。

キ. ②

文意より **think twice before SV** 「SV する前によく考える；再考する」となる②が正解。その他の選択肢では意味をなさない。

ク. ②

alive 「生きている」は通例叙述用法で用いられるため②が正解。その他の選択肢は **alive** が限定用法の位置にあるため不適。なお、限定用法では **living** や **live** (人は不可) を用いる。

ケ. ④

等位接続詞 **and** で **was surprising** と **even () the conventional wisdom** が並列されている。**surprising** 「驚くべき」は「予想に反している」ということを暗示する。一方で **conventional wisdom** 「従来知恵」は「予想通りである」ということを暗示する。このままでは **and** の前後が反対の意味になるので、**against** を含む④が正解。

コ. ③

the 比較級の **of the two** (複数名詞) 「2つ・2人 (の名詞) の中でより～」となる③が正解。この構文や最上級で用いられる「～の中で」を表す **of** は、本問のように文頭に置かれることが多いので注意。

II

A. ③・①

I'm afraid (neither of us knows what) will happen next.

afraid の直後に接続詞 **that** が省略されている。また、**what** 節は名詞節を形成するので本問では **knows** の目的語となっている。

B. ④・②

This page will give you a better understanding of (what our hospital is like).

疑問代名詞 **what** が文末に前置詞を伴う表現としては、本問の **what ~ like (=how)** と **what ~ for (=why)** が頻出。また、**of** の目的語の位置にあるので間接疑問文の語順となっている。

C. ①・③

Tell me where (it hurts) and (what) kind (of pain) it is.

Bと同様に間接疑問文の語順となっている。また、本問の what は疑問形容詞で直後に名詞を伴う。

D. ④・③

Let (me remind you of it) again nearer the date.

文頭の let と選択肢の remind が共に他動詞であり、直後に名詞を伴う。また、選択肢に of があるので remind A of B「AにBを思い出させる」の語法で並べると判断できる。

E. ④・①

That's an interesting photo. Where (could it have been taken)?

助動詞・完了形の疑問文。B・Cとは異なり間接疑問文ではないので、could を it より前に置く。

III

A. ②・①

③②⑤①④

1文目が What would happen if there were no forests on Earth? と仮定法である。2文目も Supposing that (=If) から始まるので仮定法を念頭に選択肢を見ると、④以外は仮定法であり、①②④は助動詞の過去形を含むので帰結を表す節 (=主節)、③は動詞の過去形なので条件を表す節 (=従属節) にあるべき文と分かる。以上より、1つ目の空所は③が確定する。2つ目の空所は as water vapor was lost「水蒸気が失われたとき」なので「気温が上昇して乾燥する」を意味する②、3つ目の空所は As a result「結果として」の直後なので②の結果として起こることを考え、⑤の「多くの地域が砂漠化する」に決まる。残りは文意で決めても良いが、④が直説法の文なので最後に置くという発想もあり得る。

B. ①・④

⑤①②④③

1文目に an act of double translation「二重の翻訳行為」と、また2文目の文頭に First「第一に」とあるので、少なくとも「第二」の内容がどこかで述べられていることを期待しながら考える。また、「第一」の内容が you turn the printed characters into sounds「文字から音声へ」であることも念頭に置いておく。すると「第一」の内容と③の you translate writing into speech「文字から音声へ」が対応していることが分かり、さらに③の後半 and speech into meaning「音声から意味へ」が「第二」の内容であると推測できる。以上より③は最後で確定。残りの選択肢を「第一」と「第二」に分けると、唯一 meaning「意味」というキーワードを含み、さらに also で並列を明示している④が「第二」、①②⑤がすべて「第一」と判断できる。ここまで絞ったら冠詞・指示語に着目、⑤の a set of arbitrary signs が①の those signs に、①の letters が②の the separate letters にそれぞれ引き継がれていることから、⑤①②の順番が妥当。

C. ①・②

④①③②⑤

Bと同様に冠詞・指示語に着目する。②の Her fellow students が⑤の **them** に、③の that six-month course が⑤の **the half year** にそれぞれ引き継がれている。また、③の the problems of decay, and the necessary materials and techniques for repair work が②の **the facts** に引き継がれている。これで③②⑤の順番が確定。③の **that** six-month course はどのコースを指しているのか分かりづらいが、文意より①の practical training in the care of old buildings が妥当。④は「学校を卒業してすぐ」なので時系列的に最初に置く。

D. ①・④

②①⑤④③

1文目が Excuse me, **does this bus** go to St. Paul's? なので⑤の Yes か②の No が有力候補。文意より②に決まり、the number 11 というキーワードで①が続くと分かる。①の後半が再び **Does it** go from this stop? なので返答は⑤で確定。残る選択肢は、文意より④に対する返答が③と判断できる。

E. ③・①

⑤③④①②

1つ目の空所は直後で Is something wrong? と心配しているので⑤と分かる。2つ目・3つ目・4つ目の空所は前後の文意より明らかである。残る②は最後の空所に入れて不自然ではないので確定。

IV

ア. ④

第1段落・4行目からの But her (=Katharine Graham) insights ... date back to ancient Greece. In the fourth century B.C., Aristotle wrote that people achieve *eudaimonia* ... when they fully use their unique talents, thereby fulfilling their basic function in life. という記述から、古代ギリシアのアリストテレスが *eudaimonia* について述べており、その思想が現代のキャサリン・グラハムにも影響を与えていることが分かる。よって④が正解。①は古代ギリシアと現代の関係性を否定しているため、本文の内容とは反対の内容。

イ. ②

マズローに関してはアで参照した箇所の直後に Abraham Maslow restated the concept as “self-actualization”... とある。the concept はアリストテレスの *eudaimonia* を指しており、*eudaimonia* はアを解答する際に確認した通り、キャサリン・グラハムの思想に通ずるものである。マズローはこれを self-actualization と言い換えて論じた人物なので、筆者がマズローに言及した意図としては②が正解。①は opposite ideas が、③は other ideas がそれぞれ不適。ここでは同様の思想について述べられている。④は another frame of historical development が本文で言及されていない。

ウ. ③

選択肢の主語がすべて Meaning 「意味」なので、第 1 段落・10 行目からのこの語が目立つ部分を読む。本文は「意味」について肯定的に述べているが、①②は否定的に述べているので不適。④は本文と関係のない内容。

エ. ②

女性に言及しているのは第 2 段落である。①④は女性と男性を比較しているが、本文にそのような比較は述べられていないので不適。③も本文に女性とマズローの欲求階層を結びつける記述が見当たらないので不適。

オ. ③

第 1 段落・第 2 段落で一貫して述べられているのは「意味」を見出すことの重要性であり、これを肯定する人物としてグラハム、アリストテレス、マズローが挙げられている。よって③が正解。①は「意味」の重要性を否定しているので不適。②は why we are doing something が meaning の言い換えであり、「意味」を見出すことが諦めに繋がるという記述になっている。これは①と同様に「意味」の重要性を否定しているので不適。④は本文と関係のない内容。

カ. ④

rudimentary の意味を知る受験生は少なかったと思われる。rudimentary は「人間の言語は独特である（≒他の動物よりも優れている）」という主張を具体化した文で「動物がコミュニケーションの rudimentary な形態を持つ」という箇所で使用されている。よってこの語が「人間の言語とは異なり劣っている」という否定的な意味を持つと推測できるので、④が正解。①と悩むかもしれないが、Moreover 以降の部分で **Even if it did derive from an evolutionarily earlier form of human proto-language ...** と述べられていることを考慮すると、④のほうが適切である。

キ. ③

第 2 段落・8 行目からの **And which zoo visitor can fail to be struck by just how human-like young monkeys' faces are ... ?** は反語で「どの来園者が心を打たれないか（いや、来園者は心を打たれる）」という意味なので③が正解。ただし、他の選択肢が明らかに不自然であり、消去法でも解答できる。

ク. ①

本文では一貫して「人間の言語は独特である」という従来の見解と「人間の言語と動物のコミュニケーションにこれまで指摘されてきたような大きな分断はない」という筆者の主張が対比されている。第 4 段落は 1 行目の **To be sure** から譲歩で従来の見解を述べ、5 行目の **That said** 以降で筆者の見解に転じている (**many species ... do nevertheless exhibit impressively complex communication systems in natural settings** と **do** で強調していることから、従来の見解との対比は明らか) ので①が正解。

ケ. ①

クと同様、従来の見解と筆者の主張の対比を念頭に置く。挿入する文は動物のコミュニケーションには人間の言語に匹敵する特徴があると述べており、筆者の主張と分かる。第 1 段落は 6 行目までが従来の見解、6 行目の **But** 以降が筆者の主張なので①が正解。④はクで確認した通り従来の見解なので不適。第 2 段落はオランウータンの具体例なので検討の対象から除外。

コ. ②

ク・ケで確認した通り、本文では一貫して従来の見解と筆者の主張が対比されているので②が正解。③は「人間の言語と他の動物のコミュニケーションに大きな違いがある」という従来の見解であり、主語の **The latest scientific findings** 「最新の科学的発見」が不適。①はトリとキング・ルーイの知能の高さを比較しているが、本文にそのような比較は述べられていない。④は「トリのタバコを吸う仕草が人間のそれと似ていなかったの」とあるが、本文では似ていたと述べているので不適。

以上

精進舎